

科目名称	アート・クラフト概論		授業コード	10070012	
担当教員	友定 聖雄	田口 史樹、さくまはな、中山 玲佳、三島 一能、森岡 希世子、戸矢崎 満雄、谷口 文保			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	アートとクラフトの様々な分野の歴史を検証し、技術と表現、社会と人間との関わりから、それぞれの今日的役割を理解する。アートとクラフトの材料と加工について工学的に理解し、実践するために応用できる知識を身につける。
授業計画の概要	「アート・クラフト概論」では、アートとはなにか？ クラフトとは何か？ という問いかけに対し、各領域の歴史や理論を背景に造形、表現、伝統、地域、交流などの基本的な要素について論じる。また、各教員の研究分野について解説する。
授業計画	1：イントロダクション 造形と表現1：これからの工芸とは？（友定） 2：素材と技法1 アートと社会（さくま） 3：素材と技法2 生活のなかの陶芸（森岡） 4：素材と技法3 ガラスのひかり（友定） 5：素材と技法4 絵画で描くもの（中山） 6：素材と技法5 アートとコレクション（戸矢崎） 7：素材と技法6 アートプロジェクト（谷口） 8：素材と技法7 アート≠フィギュア≠クラフト（三島） 9：素材と技法8 メタルワークス（田口） 10：造形と表現2 陶芸のひろがり（森岡） 11：造形と表現3 なぜ絵を描くのか？（中山） 12：造形と表現4 社会とつながるには？（谷口） 13：造形と表現5 植物文様の世界（さくま） 14：造形と表現6 メタルワークとかたち？（田口） 15：造形と表現7 花の絵（戸矢崎）
実務経験のある教員	担当教員全員が、美術家または工芸作家として作品を制作し発表している経験をいかし指導する。
授業時間外学習	毎回の授業の内容を参考に、興味を持った点や疑問点を自ら調べる。
評価方法	毎回の授業のミニレポート（75%）、授業への積極性など（25%）で評価する。また、出席が10回に満たない場合はE評価となる。
指導方法	レポート課題は、採点・添削し、あるいは質問に答える形で返却する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	プリントの配布もしくは適時指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	単位互換講座提供科目（UNITY、ひょうごコンソ） この授業は、アートやクラフトの分野を8名の教員が、それぞれの専門分野を通し紹介し、理解と考察を促す授業です。堅苦しく考えず、アートやクラフトを生活の中でどのように楽しみ、どのように実践していくのかを考える手助けになればと思います。

科目名称	美術基礎実習		授業コード	10070142	
担当教員	谷口 文保	さくまはな、中山 玲佳、三島 一能			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	A生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	絵画（平面）や彫刻（立体）について、材料や技術の基礎的な知識を学び、制作において表現のアプローチの手法を理解できるようになる。
授業計画の概要	美術の基礎として、デッサンや色彩、および素材と表現技術を学ぶために、2つの課題に取り組み、それぞれ平面と立体の作品を制作する。
授業計画	<p>1：課題1「かお」をモチーフとした絵画についての説明と鉛筆デッサン（谷口・中山）</p> <p>2：「かお」をモチーフとした絵画のためのアイデアスケッチ（谷口・中山）</p> <p>3：キャンバスを支持体として鉛筆または色鉛筆で下絵を描く（谷口・中山）</p> <p>4：下絵完成後、アクリルガッシュを使用して彩色を行う（谷口・中山）</p> <p>5：アクリルガッシュによる彩色を発展させながら画面を作る（谷口・中山）</p> <p>6：全体的に描き込み、作品を完成させる（谷口・中山）</p> <p>7：課題1について各学生による完成作品の発表及び教員から講評を受ける（谷口・中山）</p> <p>8：課題2「立体工作」についての説明（さくま・三島）</p> <p>9：用意したアイデアを元にスケッチする（さくま・三島）</p> <p>10：スケッチをもとに必要なパーツを作成する（さくま・三島）</p> <p>11：強度を高める構造や、安定させる台座を必要に応じて制作する（さくま・三島）</p> <p>12：パーツを組み合わせて全体を整える（さくま・三島）</p> <p>13：全体を見て造形が不十分な部分には手を加え、完成度を高める（さくま・三島）</p> <p>14：課題2の作品を展示して鑑賞し、教員から講評を受ける（さくま・三島）</p> <p>15：課題1と課題2の作品について全教員から講評を受ける（谷口・中山・さくま・三島）</p>
実務経験のある教員	担当教員全員が、美術または工芸作家として作品を制作し発表している経験をいかし指導する。
授業時間外学習	各自の作品テーマや表現に関連する作品を調べておく。 授業時間外でも課題制作に積極的に取り組み、完成度の高い作品を目指す。
評価方法	2つの課題提出物80%、授業への取り組み20%で評価する。
指導方法	2つの課題で講習会を行う他に、2つの課題作品を展示して合評を行う。
使用テキスト	適宜配布
参考テキスト・URL	実習時間内に適時紹介する。
各自準備物	作品制作に必要な材料、画材一式を事前に知らせるので、各自で準備すること。
実習費	
その他	

科目名称	クラフト基礎実習			授業コード	10070282
担当教員	友定 聖雄	田口 史樹、森岡 希世子			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	A生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	クラフト作品制作に関する初歩的な知識と技術を身につけることにより、素材の特徴を理解することができる。加工機器、道具類の基本的な使用方法を学び、作品制作にいかすことが可能になる。
授業計画の概要	それぞれのコースの道具や機械の使い方を実践的作業の中から学ぶ。また、制作体験をもとに素材の特徴と基礎技術を理解し、それらの応用から表現できる能力を身につける。
授業計画	<p>● この授業は、全受講生を3つのグループに分け、3コース同時開講とします。</p> <p>1：3コースそれぞれの課題説明、イントロダクション（友定、森岡、田口、三島）</p> <p>2：陶芸（ロクロ成形基礎／基礎造形）</p> <p>3：陶芸（ロクロ成形基礎／基礎造形）</p> <p>4：陶芸（装飾／文様デザインによる器物装飾）</p> <p>5：陶芸（装飾／下絵付けによる器物装飾）</p> <p>6：ガラス（課題、ガラス加工機器説明）</p> <p>7：ガラス（デザインチェック、サンドブラストテストピース制作）</p> <p>8：ガラス（サンドブラスト、スランプ説明）</p> <p>9：ガラス（サンドブラスト加工、研磨）</p> <p>10：メタル（課題説明、金工技法／工具の説明）</p> <p>11：メタル（平面作品の制作／透彫り技法）</p> <p>12：メタル（平面作品の制作／仕上げ）</p> <p>13：メタル（平面作品の制作／研磨）</p> <p>14：制作作品の説明資料の作成、記録等</p> <p>15：講評</p>
実務経験のある教員	友定、森岡、田口、三島 作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な制作活動を指導する。
授業時間外学習	授業時間外においても課題制作に積極的に取り組み、より完成度の高い作品にすること。
評価方法	3つの課題の合計点で評価する。課題をすべて提出しない場合はE評価となる。
指導方法	全体講評の授業でそれぞれの課題作品について教員が講評を行う。
使用テキスト	各コースの授業内容を配布する。
参考テキスト・URL	授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。
各自準備物	安全性を確保できる作業着と作業靴、筆記用具、スケッチブック
実習費	材料費 3,000 円（2022 年度）が必要。
その他	

科目名称	スケッチ・素描・イメージ		授業コード	20070102	
担当教員	戸矢崎 満雄	中山 玲佳			
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	A生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	多様な主題のスケッチ・素描を実践し、作品制作の基礎となる観察力と描写力と同時に、個々の表現を模索しながらイメージを的確に伝える技術が身につく。
授業計画の概要	美術とクラフトにおける表現の基礎トレーニングとして、スケッチ、デッサン、クロッキー、着彩でモノを見る目を養い、イメージでは個々の感性を引き出し、数多くを制作することで、手と心を自然に動かせるようにする。
授業計画	1：イントロダクション、スケッチ1：樹木/大学構内の樹木を観察し描く 2：スケッチ2：花/各自手に取り花の魅力を感じながら描く 3：スケッチ3：動物/学外にて生き物のスケッチを行う 4：クロッキー1：ヌード/裸婦モデルによるいくつかの基本的なポーズを描く 5：クロッキー2：着衣/学生がお互いにモデルとなり描く 6：これまでの課題（スケッチとクロッキー）の講評とまとめ 7：デッサン1：静物/野菜や果物をモチーフとした3時間の鉛筆デッサンを行う 8：デッサン2：組みモチーフ/鉛筆によるデッサンの導入（スケッチ、素描） 9：デッサン2：組みモチーフ/鉛筆によるデッサンの完成（素描、仕上げ） 10：着彩：組みモチーフ/アクリルガッシュによる着彩描写の導入（スケッチ、彩色） 11：着彩：組みモチーフ/アクリルガッシュによる着彩描写の完成（彩色、仕上げ） 12：イメージ：色彩表現/指定するモチーフのデザインを考える 13：イメージ：色彩表現/アイデアスケッチ、下描き 14：イメージ：色彩表現/彩色、作品を完成させる 15：デッサン、着彩、イメージ課題の講評及び授業全体のまとめ
実務経験のある教員	中山玲佳は絵画を中心とした作品などで、戸矢崎満雄は平面を含む多様な作品を展覧会などで発表の経験を生かした指導をする。
授業時間外学習	当日使う画材等の準備をすること。また、身近なものを繰り返し描くことで慣れることが大切である。
評価方法	課題作品 80%、授業態度や課題への取り組み姿勢などを 20%の割合で評価する。
指導方法	毎回到他学生の成果を鑑賞する時間を設けるほか、課題により個々の講評を行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	裸婦クロッキー：技法と 200 作例(井信吾/著、一六耀社、1999)
各自準備物	スケッチブック、作品制作に必要な材料・画材一式
実習費	
その他	実習であり、教室、設備等の理由でアート・クラフト学科のみを受講可能とする。

科目名称	卒業研究 (A)		授業コード	30079991	
担当教員	友定 聖雄	田口 史樹、さくまはな、中山 玲佳、三島 一能、森岡 希世子、戸矢崎 満雄、笹谷 晃生、谷口 文保			
単位数	10	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	A生限定
授業の目的と到達目標 (学習成果)	学習の集大成として、それぞれの研究テーマを設定し、専門の技術で表現して展示・発表することができる。
授業計画の概要	3年次までの学習成果を土台に、各自がテーマから高度な研究に取り組むための指導をゼミ形式で進める。ゼミ担当教員と副担当の指導を受けるが、テーマ内容によって他の教員の指導を求めることができる。最終の審査会までに、2回の中間発表で全教員が講評を行う。
授業計画	ゼミ担当教員と副担当教員の指導のもとで研究・制作をおこなう。最終の展示・発表による審査・講評会を経て、「卒業作品展」に展示する。 [主なスケジュール] 4月オリエンテーション、卒業研究開始 8月卒業研究第1回中間発表 11月第2回中間発表 1月提出/講評会 2月卒業作品展
実務経験のある教員	担当する全ての教員が、美術または工芸の作家で、制作や各種の作品展などの経験がある。
授業時間外学習	前年度の卒展を必ず見学すること。
評価方法	最終的な成果物としての「作品など」80%、とりくみ方や中間発表を含む「ポートフォリオ」20%で評価する。
指導方法	2回の中間発表で全教員から指導を受ける。最終審査では合同で展示を行い発表と講評を行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	ゼミ形式で、担当教員または副担当教員より参考書などが紹介される。
各自準備物	
実習費	
その他	卒業研究着手条件 17年度生以前： ・3年次までに修得した単位のうち、卒業に必要な単位数の合計が原則として100単位以上であること。 ・3年次までに開設されている必修・選択必修科目のうち、未履修科目が原則として3科目以内であること。 18年度生以降： ・3年次までに修得した単位のうち、卒業に必要な単位数の合計が90単位以上であること。